

I たばこ訴訟の展開

第1章 米国のたばこ訴訟の展開とたばこ政策…………… 棚瀬孝雄 2  
 ——喫煙自由と喫煙禁止との狭間——

- 1 問題の所在 2
- 2 現代型訴訟のモデル 5
- 3 合理的な喫煙 9
- 4 たばこ文化の変容 15

第2章 アメリカたばこ訴訟の展開……………

マーク・ギランター  
澤 敬子／渡辺千原 訳 23

- 1 リスクコントロールの手段としての私法 23
- 2 第一波、第二波たばこ訴訟 25
- 3 第三波たばこ訴訟——四訴訟類型を中心に 31
- 4 第三波たばこ訴訟——「包括的和解」とその余波 42
- 5 たばこ訴訟の可能性と限界 51

◎コラム(1)

たばこ訴訟と陪審 (棚瀬孝雄) 61

第3章 日本におけるたばこ病訴訟の展開…………… 伊佐山芳郎 65

- 1 嫌煙権訴訟からたばこPL訴訟へ 65
- 2 原告の主張 71
- 3 大蔵省と厚生省の対応と矛盾 76
- 4 組織上の問題点(弁護士結成、市民運動との連携) 80
- 5 たばこ公害の二重構造 82

◎コラム(2)

日本の嫌煙権訴訟 (眞鍋佳奈) 85

II 喫煙秩序の生成

第4章 たばこ訴訟の変容と運動のアイデンティティ…………… 佐藤岩夫 90

- 1 反たばこ運動の積極的な訴訟利用 90
- 2 嫌煙権訴訟におけるたばこ問題の構成——自由な主体による選択 91
- 3 嫌煙権訴訟からたばこ病訴訟へ——不可視のシステムを可視化する 93

4	反たばこ運動のアイデンティティ形成——「被害者」と「システムの告発者」の間	97
第5章	喫煙をめぐる職場秩序の動態	西田英一 105
	——労働省ガイドラインは何を導くのか——	

1	問題の所在	105
2	職場でのやりとりの実際	108
3	声の停止、回収、誘発	118

第6章	たばこ訴訟言説の日常的脱構築	和田仁孝 124
	——たばこ訴訟シンポジウムの会場から——	

1	喫煙者の「被害者化」の構造的意義	125
2	たばこ訴訟シンポジウムの会場から	131
3	考察と課題	136

第7章	分煙秩序の創発と規範	太田勝造 138
	——社会的影響モデル——	

1	はじめに——喫煙の諸特徴と経済的側面	138
2	シェリング・モデル	143

3	局所的な社会的影響モデル	147
4	まとめ	160

◎コラム(3)  
喫煙率から見た日本 (西田英一) 164

### Ⅲ 喫煙規制の意味論

第8章	たばこ規制の国際的諸側面	ステイヴン・D・シュガーマン 170
		南野佳代 訳

1	たばこの事実	170
2	WHOの努力——国内政策	171
3	WHOの努力——国際的側面	180

第9章	合法ドラッグと法の現実規定力	馬場健一 183
-----	----------------	----------

1	反たばこ運動の古典性と現代性	183
2	合法ドラッグとしてのたばこ	185
3	主戦場としての訴訟	189
4	たばこ問題の認識枠組みの拡大に向けて	192

第10章 嫌煙の論理と喫煙の文化……………佐藤憲一 197

——自由主義パラダイムの陥穽——

1 喫煙の追放? 197

2 喫煙と自己決定 199

3 受忍限度論の「逆倒」? 202

4 文化的マイノリティとしての喫煙者 204

第11章 たばこと子供の社会統制……………河合幹雄 212

1 未成年者喫煙禁止の根拠とは

2 行為統制から規範の再構築へ 219 213

第12章 たばこ広告とタバコ・フリー・キッズ……………望月清世 224

1 たばこ広告と〈表現〉と〈自由〉 224

2 たばこ広告の行方 229

3 タバコ・フリー——〈自由〉と〈表現〉の陥穽 234

IV 喫煙意識と政策

第13章 たばこをめぐる公共政策……………阿部昌樹 254

1 背景知としての公共政策

2 たばこ事業法のシステム 256 254

3 たばこ特別税をめぐるディスコース 261

4 公共政策と司法 267

第14章 喫煙をめぐる権利意識……………西田英一 273

——アンケート調査を素材に——

1 調査の目的と方法 273

2 主要な結果 274

索引